

「福井県港湾整備事業 経営戦略」について

【目的】 公営企業サービスを安定的に継続するため、中長期的な経営の基本計画を策定し、経営基盤の強化と財政マネジメントの向上を図る。

【対象事業】 港湾整備事業（敦賀港・福井港・和田港・内浦港）

【対象期間】 10年間（令和3年度～令和12年度）

1 経営の基本方針

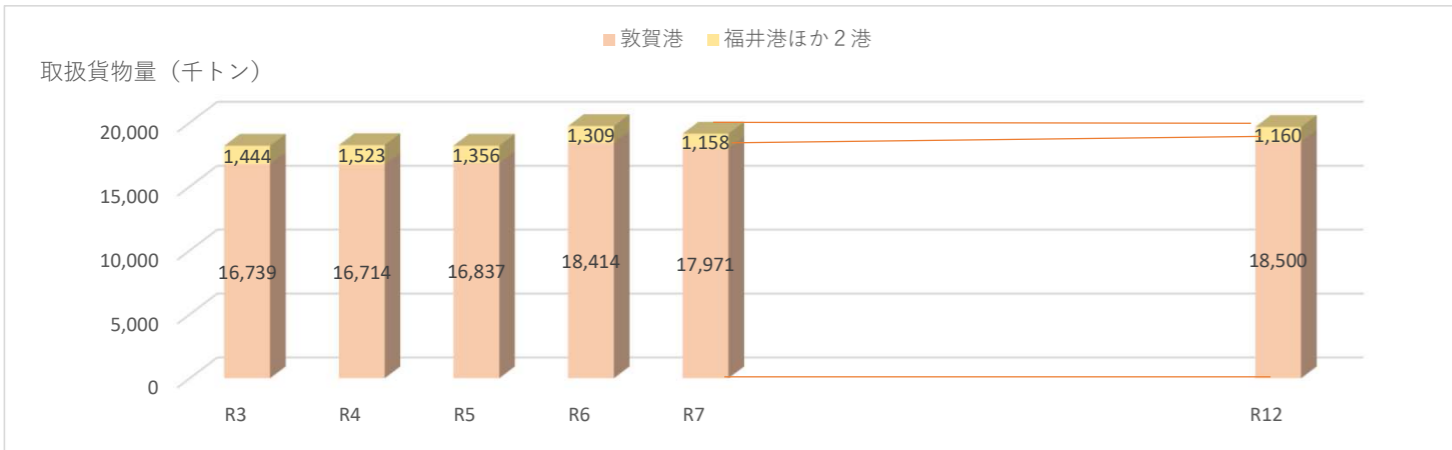
<敦賀港> 敦賀港港湾計画および敦賀港長期構想に基づき、ふ頭用地や荷役機械の整備などにより機能強化を図るとともに、地元関係者と連携したポートセールスを実施していきます。

<福井港> 福井港港湾計画および福井港港湾振興ビジョンに基づき、地元関係者と連携したポートセールスを実施していきます。

<4港共通> 適切な機能確保、施設の長寿命化を図ることで維持管理費の平準化を図っていきます。

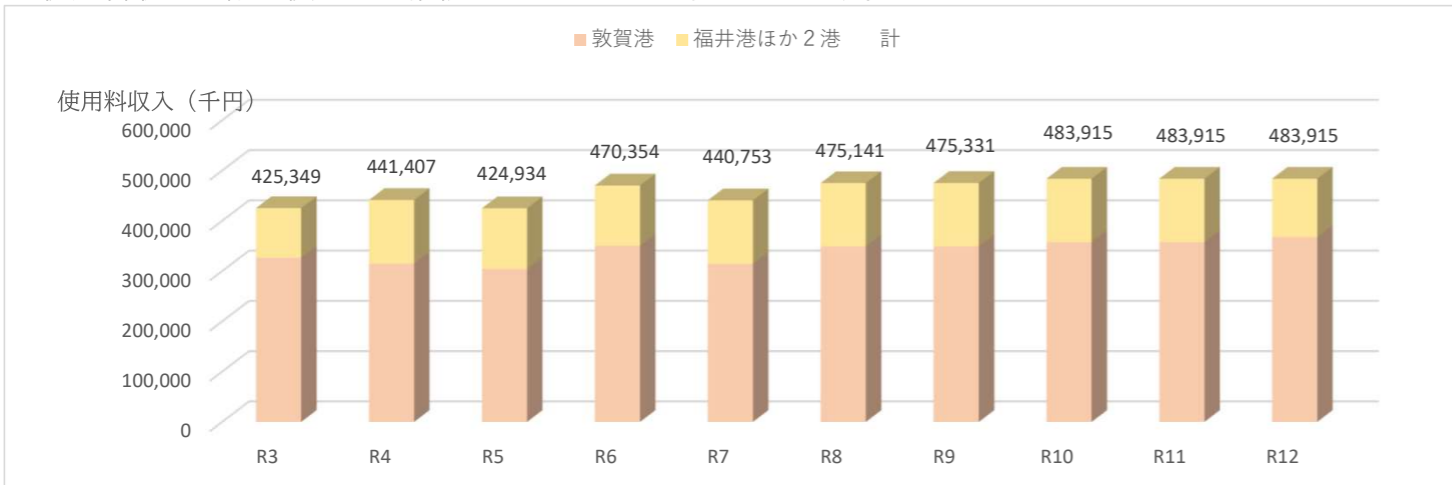
2 取扱貨物量の見通し

敦賀港の取扱貨物量は、令和5年11月に鞠山南国際ターミナルが拡張・供用開始したことから、令和6年には過去最高の18,414千トンとなっています。今後の取扱貨物量も堅調に推移することが予想されます。福井港の取扱貨物量は近年1,300千トン前後の取扱いでしたが、今後の取扱貨物量は、令和7年度途中より石炭輸入がなくなることから減少すると予想されます。内浦港はロシア情勢が不透明なことから低調に推移するものと予想されます。



3 使用料収入の見通し

使用料収入は概ね横ばいに推移していくことが予想されます。



4 施設整備計画

<敦賀港> 敦賀港の港湾計画に基づき、ふ頭整備等を実施していきます。

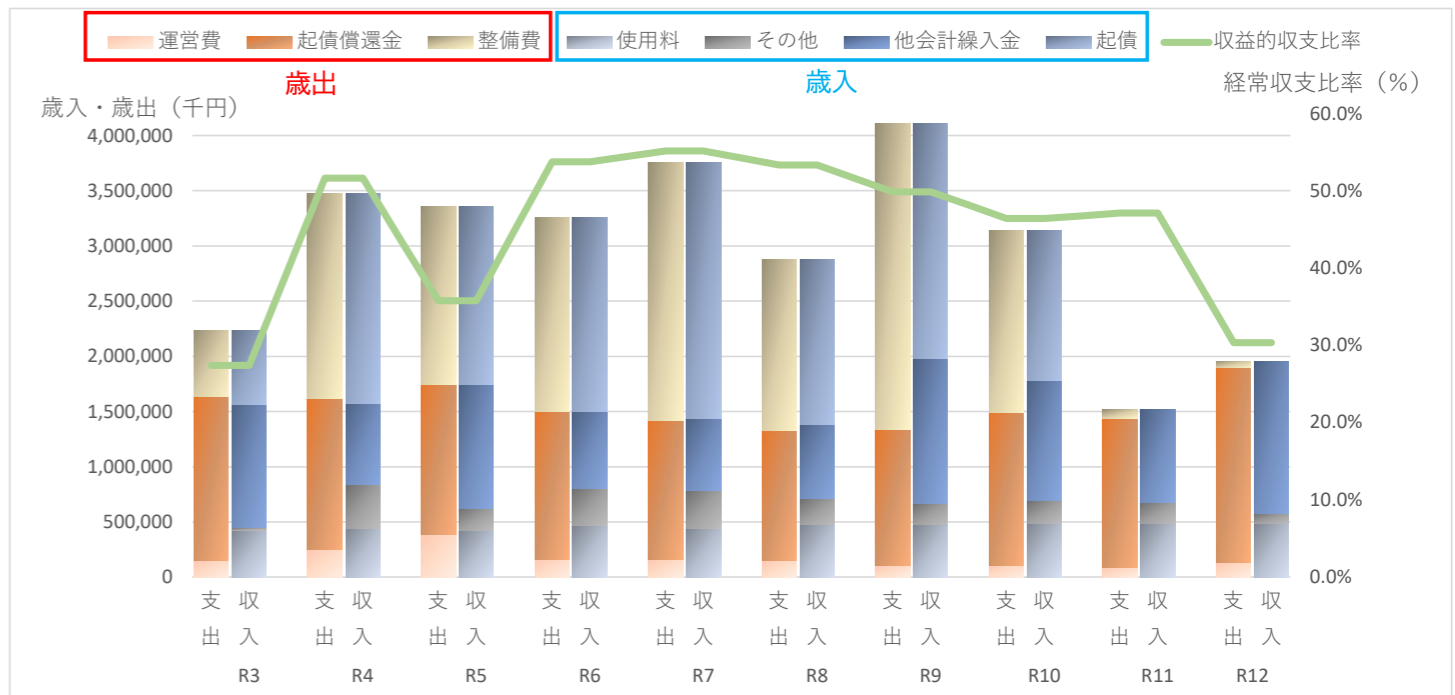
<福井港、内浦港、和田港> 港湾整備事業特別会計の対象となる施設の新設予定はありません。

<4港共通> 財源に限りがあるため、維持管理等の費用について平準化を図るため、施設の利用状況、劣化状況等を踏まえて、必要性・緊急性の優先順位をつけながら、更新、修繕、長寿命化などを図っていきます。

内容	R3~7	R8	R9	R10	R11	R12
鞠山南地区ふ頭用地造成	H27~R10					
多目的クレーン整備	R3~R7					
ガントリークレーン整備		R5~R8				

5 収支計画

敦賀港で現在整備中のふ頭用地、新ガントリークレーンに係る起債償還の据え置き期間が終わるため、歳出では起債償還金が増加する見込みです。それに伴い歳入では他会計からの繰入金が増加する見込みです。



<参考> 運営費に対する収支

- ・ 運営費については、これからも使用料で賄われていきます。

